

事業所名		こども発達支援事業所 若草園		支 援 プ ロ グ ラ ム		作成日		令和6 年	12 月	1 日
法人（事業所）理念		出生時からの早期発見、早期支援体制の中で、障がいや発達特性の有無に関係なくその子らしく成長ができ、また子育てをしている保護者や家庭が安心して地域で暮らしていけるように、丁寧かつ専門的な視点で家族を支援し、その子どもの成長を見守り、地域社会、関係機関につなげていくため支援をします。								
支援方針		就学前児の自立の促進、生活の質の向上等を図ることができるよう、対象児の発達特性や生活環境等に応じて、日常生活における基本的な動作の支援、集団生活への適応支援を適切に行います。また、こどもにとっては遊びが将来に向けた栄養素であることから、その子らしく遊ぶこと、楽しめることを一緒に考えていきます。								
営業時間			8 時	30 分	から	17 時	0 分	まで	送迎実施の有無	あり なし
		支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	○生活リズムの確立 ○発達を考慮し身の回り動作の できるを増やす個別支援提供 ○わかりやすい環境設定提案		1. お子さんの興味・関心に合わせた教材や活動と一緒に探し、一緒に行えるように用意します。 2. 食事道具の選択、操作・使い方、衣服の着脱、家庭生活や保育園、就学に向けて必要な身辺動作、様々な行動・行為などスモールステップで習得できるようにします。 3. 個別の部屋やパーティションを活用するなどして、お子さんが落ち着いた環境の中で活動に参加しやすくします。 絵や文字のスケジュール表タイムタイマーなどを使って、予定を分かりやすく伝えます。						
	運動・感覚	○運動発達の促し(粗大・巧緻性) ○様々な感覚遊びの経験 ○ルールや約束のある遊びの提案		1. トランポリンやすべり台、吊り遊具等での前庭覚・固有覚を刺激する遊びを提供します。 2. 砂・泥・水遊び、スノーズレン、お米や片栗粉遊び、シーツブランコ等の感覚遊びを楽しみます。 3. 四つん這いやつかまり立ち等歩行に向けた支援を行います。 4. ジャンプやぶら下がり、はしご渡り、トンネルくぐり等の様々な姿勢でサーキット遊びを通して体の使い方や力加減の入れ方の練習を提供します。						
	認知・行動	遊びを通して段階的に学べるように します ○発達に合わせた個別支援提供		1. 様々な型はめ、紐通し、ピンボードなどのマッチング、具体的な物や絵カードを通して属性、形、色、大きさなどを言葉と結びつけて抽象的な表現を学んでいく機会を作ります。 2. ゲームや順番を待つ場面を作り数に関して学べる機会を作ります。						
	言語 コミュニケーション	コミュニケーションの基盤作りに 取り組みます ○「聴く」こと ○「伝える」ということば ○言葉以外で「伝える」		1. 自分の発言を相手に受け止めてもらえる、相手の言うことに応じた行動や発言をすると相手が肯定的な対応をしてくれるという経験を通じてコミュニケーションの楽しさを感じられるようにします。 2. 自分のしたいことを簡単な言葉で伝えたり、手伝って欲しい時に援助を求めるなど生活の中で自分自身を大切にするために必要な行動を身につけられるように支援します。 3. 音声言語によるコミュニケーションにこだわらず、絵カードやジェスチャーや文字を使った手段を活用します。 4. 絵本や図鑑、ひらがな積み木などを見ることで、遊びの中で楽しみながら文字に親しむ機会を設けます。						
	人間関係 社会性	○お子さんの強みを一緒に見つけ ます ○人とのやりとりを経験します ○自己肯定感を育みます		個別支援の中で支援者と親御さんと一緒にお子さんの強みをたくさん見つけて、肯定的な働き掛けをすることや他者と一緒に活動する喜び、達成感が経験できるようにしていきます。 1. ごっこ遊びや簡単なルールのある遊びを準備し、役割やルールに応じた行動が身につくように働きかけします。 2. 困ったときや思い通りにならない時に、気持ちの落ち着ける方法をお子さんと一緒に考えます。						
家族支援		児童発達支援管理責任者とモニタリングを通した定期面談。親の会や心理相談を設け、子どもさんの成長や子育てに限らず、今後のこと、就学や保育園入園についてもお話を伺います。困りごとがあった時には、園長、児童発達支援管理責任者、担当保育士にいつでも相談できる園内環境と必要な関係機関につなぐ、関係者に訪問をしてもらう体制を整えます。				移行支援		入園・入学前後から関係者との情報交換を行いお子さんがスムーズに生活が送れるように支援していきます。保育園でのお子さんの様子を見学したり、保育士とお子さんの様子や支援方針について情報共有をします。就学予定の小学校や養護学校に見学に行き、情報を伝えて連携を図ります。		
地域支援・地域連携		お子さんの通っている他の児童発達支援事業所、保育園、地域の相談機関などと情報共有をするなどして連携を図ります。成長ダイアリー等で医療機関との連携を取りながら、発達面の成長を図ります。地区の文化祭等に参加。				職員の質の向上		圏域内の児童発達支援施設との定例会や職員一人一人が自己研鑽ができるように外部研修参加、他事業所への視察研修を実施し、通園をしてくるお子さんに合わせた療育、個別支援を提供できるように心掛けています。またお子さんの通っている医療受診やリハビリにも同行し、医学的な見地からの支援と保育の視点を融合させた療育の充実が図れるようにしています。		
主な行事等		季節の行事：乗馬体験（パカパカ塾）・親子遠足・夏祭り・クリスマス会・節分・保育園交流・保育園運動会参加 月間行事：避難訓練・発育測定 その他：小児科による健康診断、発達相談（年2回） ・身辺自立支援 ・歯科衛生士による歯科指導（年2回） ・リトミック（音楽療法） ・作業療法士によるあそび支援・ADL、運動発達相談 ・心理職による個別発達・子育て相談 ・言語聴覚士によることばの発達相談								